◆講義⑤〔図書館における障害者サービス〕への質問◆

質問1 デイジー機器については、将来的に「インターネットによるソフトウェア対応」に置き換わっていくのではないかと考えるのですが、その方向性で間違っていないでしょうか。

回答

ご質問ありがとうございます。お尋ねのように現在デイジーはインターネット経由でデータをダウンロードしたりストリーミングでそのまま再生できる環境にあります。これらを利用するには、一部の専用再生機、音声化ソフトを用いて音声の出るパソコンや音声アプリの入ったスマホ・タブレットが必要です。現状では、これらの機器が使えない使いにくい方が多いのも事実です。図書館からメディアの形で借りる利用者もまだまだ多いです。当面はこの両方の提供方法が続くものと考えています。近い将来、機器の操作をせずに、音声の指示のみで資料の検索や再生ができるなど、ICT 技術が画期的に向上すればインターネット経由の提供方法が主流になるかもしれません。ただし、各自の検索能力には限界がありますので、そういう時代になっても図書館職員による読書案内や情報提供が引き続き必要であると考えます。

質問2 障害者サービス担当の職員を配置しておりません。ここで言われる担当職員とは、専門職（社会福祉士など）が望ましいかお尋ねします。

回答

特に障害者サービス担当者に必要な資格とかはありません。もちろん、司書資格を有していることが望ましいですが、必ずというわけではありません。ただ、司書資格があっても障害者サービスを本格的に学んだことがある人はあまりいません。

担当になってからの学びが大切です。障害者理解、簡単な点字の読み書き、手話等を学ぶ人もいます。

できるだけ担当者を複数置いて、相談して業務が進められるようにすることと、人事異動で人が代わってもサービスが継続できること、その人だけのサービスにならないようにしてください。